

序

近藤 邦夫

平成9年度に新設された東京大学大学院教育学研究科附属の学校臨床総合教育研究センターでは、平成11年度までの3年間、「いじめ問題の解明と解決策の探求」に関するプロジェクト研究に取り組んできた。

その研究成果は、「学校臨床研究」第1巻の第1号～第5号として公刊される予定であるが、この「教師とカウンセラーのための心理教育プログラム：いじめ克服への実践ガイド」（第1巻第2号）は、いじめ問題の「解明」に取り組んだ研究班の報告書（第1号）に続くもので、いじめ問題の「解決策の探求」に取り組んだ研究班の報告書である。

本センターは、問題の解明に取り組む「研究開発部門」と、問題の解決策の探求と学校への具体的支援に取り組む「相談援助部門」の二つの部門から構成されているが、後者の相談援助部門は、亀口憲治教授を中心に、本研究科附属の中学・高等学校に平成10年に新設されたカウンセリング・ルームにおいて生徒や教師への援助活動を行うとともに、学校という場において初めて可能になる、より包括的且つ予防的な臨床教育活動としての「心理教育」の実践にも意欲的に取り組んできた。この報告書は、その活動の中間報告でもある。

言うまでもなく、いじめの問題への取り組みは、学校だけが担うものでも、「心理教育」という特殊な教育活動だけが担うものでも、ましてカウンセラーだけが担うものでもないが、この新しい探求が、学校の中でいじめ問題に取り組む教師やカウンセラーに何らかのヒントを提供することができれば、これほど嬉しいことはない。